

文化・芸術

木版「富本憲吉模様」から

「草花模様」

1915年、木版・紙
24・3センチ×17・5センチ

富本憲吉 (1886～1963年)

そぎ落とされ、抽出されてあるような、シンプルな線とも輪郭とも。この植物の形やリズム、葉っぱ一枚の傾きかげん、莖が宙をつかんで伸びるさま一つ一つに目をやってみれば、洗練されつつ温かく、おかしみさえ含んであらわれた、富本ならではの「模様」の世界に引き込まれてしまうことでしょうか。いたって平面でありながら、線や量、厚み、薄さ、柔らかさなどの触感を思わせます。

近代の陶芸家と呼ばれてきた富本憲吉は、その生涯にいくつもの「模様集」や「画帖」などを出版、制作していますが、本作は、1915年、美術店田中屋が手がけたものの一つです。

13年の夏、富本は、バーナード・リーチ(18807～1979年)とともに故郷に過ごし、自然の写生から生まれる「模様」の制作方法を見いだしました。「模様から模様を創らず」という誓いをたてたのもこの頃のことです。大和時代と自ら名付けた大正期、富本がつくり出した鮮度の高い模様の数々には、彼の源流がみてとれるようです。(小此木)

名画の扉

大川美術館企画展から

